現代学生の性格傾向とライフスタイル

—時代差および志望専攻別特徴の検討—

平　松　芳　樹
Yoshiki Hiramatsu

問　　題

青年の意識や行動には，その時代の要請や文化的な潮流が敏感に反映され，若者文化ないしは学生気質として象徴的に現われると考えられる。明治維新当時や戦時下の青年像はきわめて硬派でまじめなものとして描かれることが多く，現代の青年像とは対照的な感がある。とくに，最近の学生の性格傾向は流行語にいう「ネアカ人間」志向が強く，刻苦勉励型人間は「ネクラ」と嫌われるようである。この風潮は最近の各地の大学祭にも顕著に現われ，多くの大学で人気があるのは模擬店（お店やさんごっこ）と音量の大きい軽音楽など娯楽性の強いものであって，学究的なものは敬遠されがちである。また，テレビ番組の中にも，学生層を中心とした若者が直接参加するタイプの企画が多くあって，気軽に自己表現するのをよしとする傾向をあおるようである。現代青年のイメージは以前の「まじめで勤勉な内気な日本人」から「遊びずきで目立ちたがりの外向的な日本人」へと変貌してきているのではなかろうか。

ところで，短期大学に学ぶ青年は上記のような現代学生気質を多分に示していると考えられるが，一方では専攻学科の違いによる独特の集団雰囲気をもつものである。このちがいは，将来の職業選択に密接な関連のある専門教育を受けることを志望する段階での価値観なり動機づけを共通にする者が集まっているところからきていると考えられる。ライフスタイルという用語が，その人の生活の中での習慣や価値観・生活意識などを含めた生活様式・行動様式などをあらわすものとして使われ研究されてきているが，現代学生気質をこのライフスタイルの観点からとらえ，さらに志望専攻グループ別の雰囲気の相違をとらえてみることは興味深いと思われる。

本研究では，「最近の学生の性格傾向は，外向型が増え内向型が減っている」という仮説を立てて，約20年前の学生のデータと比較して検討することが第1の目的である。次に，約10年前（1975年）に学生を対象として調査されたライフスタイルの研究（久保良敏ら，1977）のデータと比較して，学生気質の変化をとらえることが第2の目的である。そして第3の目的は，学生の志望専攻とライフスタイルの関係を検討し，それぞれのグループの特徴を明らかにすることにある。

方　　法

対象　中国短期大学学生 476名。内訳は家政科家政専攻　77名，同科食物栄養専攻　95名，保育科144名，英文科　99名，音楽科　61名。英文科のみ2年次生42名を含むが他は1年次生。すべて女子。

調査年月日　1984年9月～12月

使用した検査および質問紙

(1)モーズレイ性格検査（日本版MPI）：MPI の原版は英国のアイゼンク（Eysenck,H.J.）が，1956年に構成したものであるが，日本版は1964年に MPI 研究会によって作成されたものである。基本尺度として，外向性－内向性尺度（E）と神経症尺度（N）をもち，その組み合わせから性格タイプの判別もできるように考案されている。なお，この MPI は家政と保育の学生のみに実施した。

(2)ライフスタイルに関する質問紙：基本的な項目は久保らのものに準じて質問紙を作成した。久保らのライフスタイル変数は，生活態度，家庭生活，つきあい，余暇と趣味，食生活，ファッション，洋風化傾向，ギャンブル，経済観念，処世観，風潮，についての40項目にわたるものであるが，このうち31項目を採用した。各専攻にわたる476名全員に実施した。

結　　果

1　性格傾向の時代的変化

日本版MPI の標準化には男女大学生のデータが使用されているが，このうち女子学生433名のものを用いて比較した。この検査は1963年に実施されたもので，433名の内訳は，女子短期大学２年生218名１年生127名，４年制大学１年生88名である。

表１は平均値と標準偏差の比較であり，図１と図２は２つの基本尺度得点を８段階に区分しての人数比の比較である。E・N得点は０～48点の間に分布し，E得点は低い方が内向性を，高い方が外向性を示す。表１にみるように，E得点の平均値は最近の学生の方が有意に高く，外向的であるといえる。さらに，図１のように８段階に区分して各段階の構成人数比をみれば，この傾向はより一層鮮明になる。「かなり外向的」のところにピークがくることがわかる。

表 1.　MPIのE・N尺度得点の時代差比較

調査年と差の検定	E 得点 M (SD)	N 得点 M (SD)
1963年(n=433)	26.3 (10.36)	24.4 (10.11)
1984年(n=221)	32.8 (8.71)	23.6 (9.88)
t　値	8.0039	0.9852
有意水準	P<.001	ns

約20年前のこの検査を標準化した当時のデータは，正規型の分布を示していたのであり，E^-（内向的：０～18点）と，E_0（平均的：19～30点）およびE^+（外向的：31～48点）の３グループに分ければ，それぞれ 26.5%，36.3%，37.2%とバランスがとれていた。しかし，今回の結果を同様に３つのグループに分ければ，それぞれ 7.7%，29.0%，63.3%とすっかりバランスがくずれている。

N得点（神経症的傾向）については，平均値に有意差はなく，図２の分布を見てもほとんど差のないことがわかる。

1963年には N^- 28.4%，N_0 43.7%，N^+ 27.9% であり

1984年には N^- 34.8%，N_0 41.2%，N^+ 24.0% であって，３群に分類しての構成比にも有意差はみられなかった。

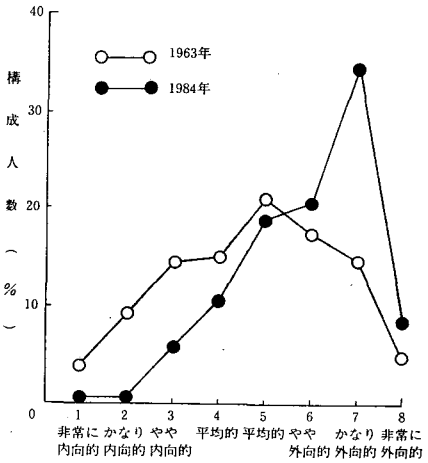

図 1.　E得点の８段階区分による構成人数比

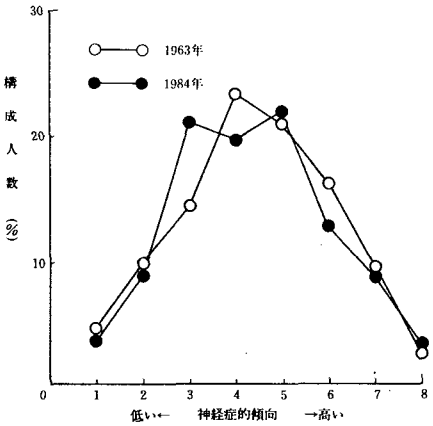

図2.　N得点の8段階区分による構成人数比

2　ライフスタイルにみる時代差

約10年前の1975年の学生と今回の1984年の学生のライフスタイルを比較したものが表2である。

1975年の調査対象は，高校生と大学生の男女634名であり，高校生と大学生の比率は41：59，男女の比率は52：48であった。表中の数字は各項目毎の3段階評定に回答した者の構成比であり，中央は「どちらともいえない」と回答した者。有意差のみられたのは次の21項目であり，この10年間の変化と考えられる（ただし「考察」で述べる問題点は残る）。χ^2検定の有意水準の印は項目番号の下へつけた。その項目内の比率の差のＣＲ検定の有意水準は各数字のところへつけた。

ア，「平凡な生き方が好き」が増え「変化に富んだ生き方が好き」は減った。

イ，「積極的に行動する」が減った。（もっとも，絶対数では「どちらともいえない」が過半数ある）

ウ，「他人によく相談する」が増え「自分ひとりで考える」が減った。

エ，「自分の家族とよく話し合う」が増え「話しあわない」が減った。

オ，「マイホーム主義に賛成」が増え「マイホーム主義に反対」が減った。

カ，「コンパのような集まりが好き」が増え「苦手な方」が減った。

キ，「ボーイフレンドが多い方」が増え「少ない方」が減った。（ただし絶対数は「少ない方」が多い）

ク，「休日は有効に使う」が増え「暇をもてあます」が減った。

ケ，「テレビ・ラジオをよく視聴する」が増え「あまり視聴しない」は減った。

コ，「食事は楽しみながら時間をかけてとる」が増え「早くすませる」は減った。

サ，「レストランでよく食事する」が増え「しない」が減った。（絶対数は「しない方」が多い）

シ，「服装は流行を積極的にとり入れて着る」が減った。（絶対数は流行をあまり気にしないが多い）

ス，「身のまわり品は一般的な品をそろえる」が増え「高級品をそろえる」は減った。

セ，「部屋のインテリアに関心がある」が増え「関心がない」が減った。

ソ，「自分の部屋は洋室が好き」が増え「和室が好き」は減った。

タ，「パチンコなどの勝負ごとはきらい」が増え「ギャンブル好き」は減った。

チ，「貯金する方」が増え「貯金しない方」が減った。

ツ，「礼儀作法にこだわらない方」が減った。（絶対数は「礼儀作法を重んじる」が約半数と多い）

テ，「義理人情を重んじてつきあう」が減った。

ト，「世代の断絶を感じる」が減った。

ナ，「男性の長髪はきらい」が増え「男性の長髪は好き」が減った。

以上が10年前の学生とくらべて，今回（1984年）の学生にみられた変化である。

3　ライフスタイルにあらわれた志望専攻グループ別特徴

家政科家政専攻，食物栄養専攻，保育科，英文科，音楽科の5グループのライフスタイルの特徴をみるため，全体の合計値を期待値として，各グループの回答値をχ^2で検定した。

表2.　1975年と1984年の学生間のライフスタイルの比較

上段：1975年 $n=634$
下段：1984年 $n=476$

項目No.			%	%	%		
1*	変化に富んだ生き方が好き	***	59.9 46.6	17.2 19.1	22.9 34.2	***	平凡な生き方が好き
2*	何事にも積極的に行動する方	**	34.5 25.8	39.0 52.5	26.5 21.6		何事にも積極的に行動しない方
3	約束の時間をきちんと守る方		68.3 65.5	11.0 17.4	20.7 17.0		約束の時間につい遅れる方
4	現在の生活に満足している		32.3 36.6	20.8 25.2	46.8 38.2		現在の生活に満足していない
5***	自分ひとりで考える方	***	60.2 31.5	18.5 21.6	21.3 46.8	***	他人によく相談する方
6**	自分の家族とよく話しあう方	***	48.2 63.4	22.2 20.4	29.5 16.2	***	自分の家族と話しあわない方
7***	マイホーム主義に賛成	***	43.3 74.8	42.9 22.5	13.6 2.7	***	マイホーム主義に反対
8	つきあいの広い方		45.3 49.2	27.9 33.2	26.8 17.6		つきあいの狭い方
9*	パーティーやコンパのような集まりの好きな方	***	47.8 62.2	22.2 17.2	30.0 20.6	***	パーティやコンパのような集まりの苦手な方
10*	ボーイ（ガール）フレンドが多い方	***	16.2 24.6	28.1 35.3	55.7 40.1	***	ボーイ（ガール）フレンドが少ない方
11*	休日は有効に使う方	***	32.3 47.3	30.6 21.7	37.1 25.6	***	休日は暇をもてあます方
12	趣味の多い方		41.8 40.1	25.7 25.4	32.5 34.5		趣味の少ない方
13*	テレビ・ラジオをよく視聴する方	***	63.0 75.0	17.4 13.0	19.8 12.0	***	テレビ・ラジオをあまり視聴しない方
14	よく読書する方		35.9 30.9	22.2 26.5	41.8 42.6		あまり読書しない方
15	食べ物にうるさい方		45.8 43.1	25.2 29.0	29.0 27.9		食べ物に無頓着な方
16***	食事は楽しみながら時間をかけてとる方	***	35.2 53.4	24.8 23.3	40.1 23.3	***	食事は時間をかけずに早くすませる方
17*	レストランでよく食事をする方	***	13.8 22.3	20.8 27.7	65.2 50.0	***	レストランで食事をしない方
18**	服装は流行を積極的にとり入れて着る方	***	24.0 11.1	30.0 40.8	46.0 48.1		服装は流行をあまり気にせず着る方
19	制服が好きな方		40.6 36.6	30.4 34.9	29.0 28.6		制服がきらいな方
20***	身のまわり品は高級品をそろえる方	***	12.6 1.3	27.4 18.1	60.0 80.7	***	身のまわり品は一般的な品をそろえる方
21***	部屋のインテリアに関心がある方	***	51.5 74.6	19.9 14.9	28.7 10.5	***	部屋のインテリアに関心がない方
22	食事は洋食が好きな方		36.9 39.5	44.5 36.6	18.6 23.9		食事は和食が好きな方
23***	自分の部屋は洋室が好きな方	***	51.5 79.4	29.2 10.5	20.4 10.1	***	自分の部屋は和室が好きな方
24**	パチンコなどの勝負ごとが好き	***	37.3 21.2	24.5 27.7	38.4 51.5	***	パチンコなどの勝負ごとはきらい
25*	貯金をする方	***	35.5 45.4	21.3 25.0	43.2 29.6	***	貯金をしない方
26	お金の使い方が堅実な方		31.7 33.0	19.6 22.7	48.8 44.3		お金はついムダ使いする方
27*	礼儀作法を重んじる方		56.8 51.3	22.9 36.1	20.4 12.6	***	礼儀作法にこだわらない方
28*	義理人情を重んじてつきあう方	***	57.6 43.9	25.6 34.9	16.9 21.2		わりきってつきあう方
29***	世代の断絶を感じる方	***	43.1 24.6	29.0 47.1	28.0 28.4	***	世代の断絶を感じない方
30***	男性の長髪は好きな方	***	41.3 4.6	37.2 18.9	21.5 76.5	***	男性の長髪はきらいな方
31	流行語は好んで使う方		35.5 24.2	37.5 46.2	27.0 29.6		流行語は使わない方

* $P<.05$　** $P<.01$　*** $P<.001$（項目No.の印は χ^2 検定，数字部分はCR検定による）

各専攻分野グループの回答数を，それ以外の専攻分野グループの回答数と比較して，有意差のみられる項目をまとめると次のようになる。有意水準は，*（$p<.05$）**（$p<.01$）***（$p<.001$）で示す。

(1) 家政専攻学生と他の専攻分野の学生合計との回答数の比較

項目No.	他専攻より回答比率の高いもの	他専攻より回答比率の低いもの
8	つきあいの狭い方 **	
14	あまり読書をしない方 **	
20	身のまわり品は一般的な品をそろえる方 **	
24	パチンコなどの勝負ごとが好き **	
27	礼儀作法にこだわらない方 *	礼儀作法を重んじる方 *
28		義理人情を重んじてつきあう方 ***

(2) 食物栄養専攻学生と他の専攻分野の学生合計との回答の比較

項目No.	他専攻より回答比率の高いもの	他専攻より回答比率の低いもの
10	ボーイフレンドが少ない方 *	ボーイフレンドが多い方 **
11		休日は有効に使う *
15		食べ物に無頓着な方 **
18		服装は流行を積極的にとり入れて着る方 *
22		食事は洋食が好きな方 ***
25		貯金をする方 **
27		礼儀作法を重んじる方 **
31		流行語は使わない方 *

(3) 保育専攻学生と他の専攻分野の学生合計との回答数の比較

項目No.	他専攻より回答比率の高いもの	他専攻より回答比率の低いもの
2	何事にも積極的に行動する方 ***	
4	現在の生活に満足している ***	
5	他人によく相談する方 *	
6	自分の家族とよく話し合う方 ***	自分の家族と話しあわない方 *
8	つきあいの広い方 ***	つきあいの狭い方 *
10	ボーイフレンドが多い方 **	
12	趣味の少ない方 *	
15	食べ物に無頓着な方 *	
17	レストランで食事をしない方 *	
18	服装は流行を積極的にとり入れて着る方 **	
19	制服が好きな方 ***	
23	自分の部屋は和室が好きな方 *	
25	貯金をしない方 *	
27	礼儀作法を重んじる方 *	
28	義理人情を重んじてつきあう方 **	

(4) 英文専攻学生と他の専攻分野の学生合計との回答数の比較

項目No.	他専攻より回答比率の高いもの	他専攻より回答比率の低いもの
2		何事にも積極的に行動する方 **
5		他人によく相談する方 **
10		ボーイフレンドは少ない方 **
11	休日は有効に使う方 *	休日は暇をもてあます方 **
14	よく読書する方 *	
20		身のまわり品は一般的な品をそろえる方 **
25	貯金をする方 *	貯金をしない方 *

(5) 音楽専攻学生と他の専攻分野の学生合計との回答数の比較

項目No.	他専攻より回答比率の高いもの	他専攻より回答比率の低いもの
3		約束の時間をきちんと守る方 ***
6		自分の家族とよく話しあう方 ***
13	テレビ・ラジオをあまり視聴しない方 *	テレビ・ラジオをよく視聴する方 ***
22		食事は和食が好きな方 *

考　　察

本研究の第1の目的とした「最近の学生の性格傾向は，外向型が増え内向型が減っている」との仮説は，MPI 性格検査の上からは検証できたと考えられる。MPI の日本版が作成された当時の20年前の学生よりも，外向性－内向性尺度のE得点は平均値で6.5ポイント外向的な方向へ移動している。8段階評定では「かなり外向的」の段階の人数が最も多かった。またE^+(外向型）と分類される者が6割を超えていたのである。筆者の体験でも，ものおじせず教師に近づき気軽に話しかけたり，自分に不利と感じられることがあればすぐ異議を唱えるなど表面的な態度だけでもかなり変化してきていると感じている。また，同僚や他学の教員からも同様の感想を聞くことが多い。心理学の研究者間でも比較対象群としての内向者をいかにして集めるかに苦心するといわれる程である。

なぜこのように大きく変化してきたかという原因については種々な考え方があろうが，筆者は第1に週刊誌・雑誌・テレビなどのマスコミの影響が大きいと考える。日本文化は恥の文化と呼ばれたり，自分の感情を極力抑えることを美徳とした時代もあったであろうが，今やタブーなき文化の方向へ進みつつあるのではなかろうか。また，もう1点には学校教育の影響も無視できない。小学生の頃までは外向的な子の方が何かにつけて得をすると感じられるし，教師も積極的に発表する場を与えるような指導をされる。さらに，激しい受験戦争や就職戦線でも自己表現力が乏しいと損をする場合もあろうし，競って外向型を養成するところとなる。

さて，第2の目的は，ライフスタイルの観点から最近の学生気質の変化をとらえることにあったが，調査した項目の7割近くに有意差が認められ，10年間で相当に変化するものだと感じられる。しかし，次のような問題点が含まれていることを考慮しなければならない。それは両データの間の地域差，年齢差，性差などである。このうち地域差については，広島と岡山と近隣地であり，年齢差も大差はなくあまり問題にはならないと考えられる。しかし性差については無視できない。今後，男子学生の資料を加

えて検討する必要がある。そこで，久保らの指摘している性差の顕著な項目は一応除いて考察することとする。それらの項目は，まず男性に特徴的とされるのは，「変化に富んだ生き方が好き」および「パチンコなどの勝負ごとが好き」の2つであり，女性に特徴的とされるのは，「自分の家族とよく話しあう」「レストランで食事をする」「洋食が好き」「服装は流行をとり入れて着る」「部屋のインテリアに関心がある」および「自分の部屋は洋室が好き」の項目である。これらの項目を除いてまとめると次のようになる。

10年前の学生と比較した最近の学生の特徴は，次の4点に集約できる。第1に，他人によく相談し，コンパなどの集まりが好きで，異性の友だちは多いと答えるものが多くなっていて，ここでも外向的傾向が強くなっていることがわかる。第2点は，身のまわりの品は一般的な品をそろえ，貯金をすると答える者が増え，義理人情を重んじてつきあう傾向が減るように，ドライで合理的な生き方を求める傾向がみられる。第3点は，食事を楽しみながら時間をかけてとり，テレビ・ラジオをよく視聴し，休日は有効に使い，マイホーム主義に賛成する者が増えるというように，個人的なゆとりを楽しむ生活を求める傾向が強くなっている。第4点は風潮の変化で，世代の断絶を感じ男性の長髪を好感していたものが，世代の断絶を感じる者は減り，8割近い女子学生は男性の長髪をきらいと表明するようになった。以上を要約すれば，最近の学生は対人関係に積極的でより外向的となり，損得勘定のちゃんとできるわりきった生き方を求め，個人的な自由度の大きい生活を求める傾向が強くなってきたといえよう。なお世代間の隔たりを感じる者は少なくなり，男性の長髪はきらうようになっている。

本研究の最後の目的は，志望専攻グループ毎に特徴的なライフスタイルはどのようであるかを明らかにすることにあった。各専攻グループ別にまとめると次のようである。

㈠　家政専攻学生グループは，人づきあいは狭い方で，礼儀作法や義理人情にはあまりこだわらず，わりきってつきあう。身のまわり品は一般的な品をそろえ，パチンコなどに興味を示し，あまり本は読まないという傾向がみられる。ひと口で表現すれば，自由な学生生活を気軽に楽しんでいるグループといえよう。現代の学生気質がすなおに表現されたひとつの典型と考えられる。

㈡　食物栄養専攻学生グループは，回答比率の高い方の有意差のある項目がほとんどないので特徴がつかみにくいが，ボーイフレンドが少ないと嘆きながらも，休日を有効に使ってみようとか流行の服装を身につけて積極的に人目につこうとはしない。さすがに専門の食物には無頓着ではおられないが，どちらかというと和食が得手で洋食はそれ程好きではない。お金を貯めようとする方でもない。このように積極的に自分を表面に出そうとはしない最も地味なグループという印象である。

㈢　保育専攻学生グループは，つきあいは広くボーイフレンドも多い。家族ともよく話し他人にも気軽に相談をもちかけるなど対人関係には意欲的である。趣味は少なく，食べ物に無頓着であまり外食もせず貯金もしないが，服装に流行をとり入れたり何事にも積極的に行動し，現在の生活に満足している。自分の部屋は和室を希望し，制服は好きで礼儀作法や義理人情を重んじるなど伝統的なものを大切に考えている。一口にいえば，現状肯定的で気さくな雰囲気と浪速節的な気特をもったグループである。

㈣　英文専攻学生グループは，他人に相談したり積極的に行動する方ではないが，ボーイフレンドは少なくはなく，休日は有効に使うことができる。身のまわりには高級品をそろえるというのではないが一般的な品をそろえる方でもなく，貯金はしている。5つのグループの中では最もよく本を読む。これらをまとめたイメージは，地道な読書好きの文学青年で，積極的な行動はとらないが他人志向的ではな

く，経済観念もしっかりしているというところである。

(五) 音楽専攻学生グループは，有意差項目が少なく部分的な印象しか形成できないが，テレビ好きの多い中ではめずらしくあまり視聴しない。家族との対話もそれほどする方ではなく，約束の時間を厳守する方でもない。食べ物は和食はあまり好みでない。これだけではイメージがわきにくいので，単独の専攻グループとの間に有意差のある項目を調べてみると，保育専攻学生グループとの間に次のような項目に差がみられた。保育学生よりも音楽学生は，平凡な生き方を求める者は少なく，現在の生活に満足している者が少ない。そして自分の部屋は洋室が好きという学生が多いなどである。これらからまとめてみると，音楽学生は保育学生のような現状肯定的で和風好みとは対照的で，枠にはまるよりはマイペースの自分なりの生き方を求め洋風好みである。またテレビにかじりつくことなく家族とのつきあいもあっさりしているといえる。

上記のように現代の学生気質をライフスタイルの観点からとらえてみると，全体としての時代的変化がみられる中に，志望専攻を異にする学生グループではそのグループ毎に特徴的な雰囲気をもつことがわかる。

〔付記〕 本研究の一部は，1984年12月開催の岡山心理学会第32回大会において口頭発表した。

文　　献

MPI研究会　1969　新・性格検査法，誠信書房.

久保良敏・長町三生・片岡晃　1977　現代学生のライフ・スタイルに関する研究，実験社会心理学研究，17，60－73.

平松芳樹　1984　女子短大生のライフスタイル，岡山心理学会第32回大会発表論文集.